

授 業 科 目 区 分	共通基礎科目		開設コース	教育政策リーダーコース
授 業 科 目 名 (英 文 名)	カリキュラム・マネジメント (Curriculum Management)			
単 位	2単位	担 当 教 員	天笠 茂	
必修・選択の別	必修			
授 業 の 方 法	講義・演習			
標 準 履 修 年 次	1年次			
開 講 学 期	前期			
授 業 の テ ー マ 及 び 到 達 目 標	カリキュラム・マネジメントに関する歴史、現状、新たな政策動向などについて分析・検討を加えることを通して、わが国の教育課程に関する政策及びマネジメントについて理解を深め、教育のリーダーに求められる教育課程に関する識見を涵養する。あわせて、各学校及び教職員へのカリキュラム・マネジメントの普及をはかるにあたって、その戦略と手法の開発を探る。			
授業の内容・計画	第 1 回	講義・演習① ・教育委員会による地域教育経営		
	第 2 回	講義・演習② ・教育委員会による指導行政－各学校の学力向上と授業改善へのアプローチ－		
	第 3 回	講義・演習③ ・校内の経営組織の改善・改革－カリキュラム・マネジメント定着への働きかけ－		
	第 4 回	講義・演習④ ・指導主事の力量形成をめぐって－カリキュラム・マネジメントを指導する力への着目－		
	第 5 回	VOD視聴学習① ・学校において編成する教育課程－学習指導要領をめぐって－		
	第 6 回	VOD視聴学習② ・カリキュラムとマネジメント（1）：カリキュラムのPDCA		
	第 7 回	VOD視聴学習③ ・カリキュラムとマネジメント（2）：教科横断とカリキュラム・マネジメント		
	第 8 回	VOD視聴学習④ ・カリキュラムとマネジメント（3）：経営資源としてのヒト・モノ・カネ・情報、カリキュラムと経営資源、カリキュラムと協働、スタッフマネジメント		
	第 9 回	VOD視聴学習⑤ ・次期学習指導要領とカリキュラム・マネジメント：教育課程企画特別部会「論点整理」、学習指導要領総則		

	第10回 VOD視聴学習⑥ ・市町村教育委員会のグランドデザイン：教育行政と学校経営－カリキュラムを核に－、各学校におけるカリキュラム・マネジメントへの支援
	第11回 VOD視聴学習⑦ ・9年間を通したカリキュラム開発：小中一貫・連携教育の普及・定着への戦略、地域教育経営の活性化と小中一貫教育
	第12回 フィールドワーク①（先進地域・校に出向いての学習） ・研究開発学校に出向き、研究開発の内容を学ぶ。
	第13回 フィールドワーク②（先進地域・校に出向いての学習） ・研究開発学校に出向き、研究開発に関するシステム及び運用について学ぶ。
	第14回 フィールドワーク③（先進地域・校に出向いての学習） ・研究開発学校に出向き、研究開発の評価について学ぶ。
	第15回 フィールドワーク④（先進地域・校に出向いての学習） ・研究開発学校について得られたデータをもとにレポートにまとめる。
成績評価の方法・観点等	1. 成績評価の方法・項目 成績評価は、「講義・演習（対面集中講義）」の進行に合わせ、討論と協議への参加の状況・貢献度（40%）、「ビデオ」教材視聴（40%）、及び「フィールドワーク」についてレポートの提出（20%）、などを総合して評価する。レポートを作成する文章力、その完成度、及び、「対面集中講義」におけるプレゼンテーション力、などを重視する。 2. 成績評価の観点 ・授業における参加の状況・貢献度、プレゼンテーション力など。 ・レポートの提出。レポートの構成力、論理的な展開、文章力など。 3. 到達目標 ・教育課程、及び、カリキュラムに関連する専門用語の意味・定義を正しく説明できる。 ・学校における教育課程の実態、及び、課題について具体例をもとに説明できる。 ・教育課程の開発について、研究開発学校をもとに、理論と手順について説明できる。 ・わが校の教育課程の編成・実施・評価について、自分の意見を言うことができる。 ・現任校の教育課程に関する研究推進について組織の現状と課題を分析し、改善プランを作成できる。
テキスト・教材・参考書等	・天笠 茂『カリキュラムを基盤とする学校経営』ぎょうせい、2013年
事前事後学修	「講義・演習（対面集中講義）」については、事前に発表のためのレジュメの作成を求める。また、それぞれのレポートの作成にあたって、学んだことを振り返り、得られた知見をもとに、まとめることを求める。（全60時間）
そ の 他	最初の4回の講義・演習（対面集中講義）の日程は、講師と受講生の都合によって、時間、場所を設定する。 受講生のキャリアによって、各回の授業の内容も適宜対応させていく。 アクティブ・ラーニング実施科目

授 業 科 目 区 分	共通基礎科目		開設コース	教育政策リーダーコース
授 業 科 目 名 (英 文 名)	多様な授業方式・形態とその支援体制 (A variety of instruction methods, class arrangements and their support system)			
単 位	2単位	担 当 教 員	藤川 聡	
必修・選択の別	必修・選択必修			
授 業 の 方 法	講義・演習			
標 準 履 修 年 次	1年次			
開 講 学 期	前期			
授 業 の テ ー マ 及 び 到 達 目 標	多様な授業方式・授業形態に関して、その理論的背景と実践を検討する。具体的には、現在着目されているアクティブ・ラーニング、ICT等のメディアを活用する今日的な授業、小中連携・一貫教育を取り上げる。そして先進校、先進地域の事例を実地に学ぶことを通して、各学校、地域の実態に応じた導入のあり方や支援体制の在り方について考察する。それらを通じて受講者の所管する組織の実態に即した効果的な授業方式・授業形態を構築、導入できる能力を身につける。			
授業の内容・計画	第 1 回	講義・演習①：オリエンテーション―授業概要の説明		
	第 2 回	講義・演習②：アクティブ・ラーニング導入の経緯と考え方 アクティブ・ラーニングが注目される経緯、学習指導要領における主体的・対話的で深い学び、またそれらに関わる評価について基本的考え方を示す。		
	第 3 回	講義・演習③：I C T教育導入の経緯と考え方 I C T教育が注目される経緯とその基本的考え方を示す。		
	第 4 回	講義・演習④：小中一貫教育導入の経緯と考え方 小中一貫教育が注目される経緯とその基本的考え方を示す。		
	第 5 回	VOD視聴学習①：アクティブ・ラーニングの実践と課題 アクティブ・ラーニングの実践例と導入に関わる課題を示す。		
	第 6 回	VOD視聴学習②：I C T教育の実践と課題 I C T教育の実践例と導入に関わる課題を示す。		
	第 7 回	VOD視聴学習③：小中一貫教育の実践と課題 小中連携・一貫教育の実践例と導入に関わる課題を示す。		
	第 8 回	フィールドワーク①：先進的实践校におけるFW(フィールドワーク) 1：先進的实践校でFWを行い、その理念や内容について理解する。		
	第 9 回	フィールドワーク②：先進的实践校におけるFW 2：先進的实践校でFWを行い、その具体的実践を知る。		

	第10回	フィールドワーク③：先進的実践校におけるFW3：先進的実践校でFWを行い、その成果と課題を知る。
	第11回	フィールドワーク④：先進的実践校におけるFW4：先進的実践校でFWを行い、受講者の所管する組織と比較しながら、その実践を評価する。
	第12回	集中演習①：アクティブ・ラーニングの事例検討と導入のあり方 アクティブ・ラーニングの先進校におけるFWを踏まえて導入と支援体制を考察する。
	第13回	集中演習②：ICT教育の事例検討と導入のあり方 ICT教育の先進校におけるFWを踏まえて導入と支援体制を考察する。
	第14回	集中演習③：小中連携・一貫教育の事例検討と導入のあり方 小中連携・一貫教育の先進校におけるFWを踏まえて導入と支援体制を考察する。
	第15回	集中演習④：全体のまとめ 授業の振り返りを行う。本授業全体のまとめを行う。
成績評価の方法・観点等	○成績評価の方法・評価項目 VOD視聴レポート（30%）、フィールドワークのレポート（60%）、講義・演習、集中演習における討論（10%）とし、総括的に評価する。 ○成績評価の観点 VOD視聴レポートでは、多様な授業方式・授業形態における知識の習得と、受講者の所管する組織へ動機付けについて評価する。フィールドワークのレポートの評価では、多様な授業方式・授業形態に関して基礎的な事項についての理解、論述における論理的な思考、適確な表現力を評価する。講義・演習、集中演習における討論への貢献では、積極性、発言内容の適確さ、有益な話し合いを展開できるスキルを評価する。 ○到達目標 ・多様な授業方式・授業形態に関して基礎的な理解を得て、説明できること。 ・先進校、先進地域、現任校の事例を実地に学ぶことを通して、現状と課題を分析、検討し、所管する学校、地域の実態に応じた導入のあり方、支援体制のあり方を考察して、その改善プランを作成できること。	
テキスト・教材・参考書等	・教材は、その都度、担当教員がプリントして配付する。 ・参考文献等は、講義内で紹介する。 ・その他、必要なものについては、第1回目のオリエンテーション時に紹介する。	
事前事後学修	事前に学習指導要領解説の本授業に関わる部分に目を通しておくこと。VODレポートの作成にあたって、学んだことを振り返り、得られた知見をもとに、自身の組織と、関連させ、まとめることを求める。「集中演習」については、事前に発表のための資料（FWレポート）の作成しておくこと。（全60時間）	
そ の 他	・アクティブ・ラーニング実施科目	

授 業 科 目 区 分	共通基礎科目		開設コース	教育政策リーダーコース
授 業 科 目 名 (英 文 名)	生徒指導の学校体制と教育委員会の危機管理 (The school system of student guidance and the risk management of board of education)			
単 位	2単位	担 当 教 員	新井 肇	
必修・選択の別	選択必修			
授 業 の 方 法	講義・演習			
標準履修年次	1年次			
開 講 学 期	後期			
授 業 の テ ー マ 及 び 到 達 目 標	本授業の目的の一つは、不登校、いじめ、暴力行為、自殺などの今日的教育問題の解決に向けて、生徒指導が担う役割や課題を理論的、実践的に検討することにある。とりわけ、学校内における教職員間の協働体制の構築、さらに教育委員会をはじめ、地域や専門機関との連携を強化することの意義や具体的方法についての考察を中心とする。 もう一つの目的は、学校危機はいずれの学校においても発生するものとの認識に立ち、いかにして危機を回避し、あるいは危機に対応するのか、学校危機管理対応のために必要な課題の整理とアプローチについて、学校組織に対する教育委員会の支援という視点を中心に検討することにある。 この目的を達成するために、学校心理学やカウンセリング心理学、ソーシャルワーク等の理論を紹介するとともに、具体的な事例をとりあげ、協働的生徒指導体制を構築するための実践的方法、及び学校危機への支援の実際について考察する。問題によっては、教育現場での経験を報告・議論し、シミュレーションやロールプレイ等を実施する参加型の実践形式で授業を行う。また、先進的な教育委員会の事例をフィールドワークで学ぶことを通して、受講者の勤務地域の実態に応じた危機管理対応のあり方、及び教育委員会の支援体制のあり方について検討する。 期待される学習効果としては、児童生徒理解に基づく生徒指導の多様な理論や方法を熟知し、学校の生徒指導のための組織的体制づくり及び生徒指導実践の方法について適切な指導・助言ができる指導力の向上をあげることができる。あわせて、学校内外の連携のあり方、特に、学校危機において求められる外部専門機関による支援に関する理論と方法についての理解を深める機会としたい。			
授業の内容・計画	第 1 回	講義・演習①：オリエンテーション：児童生徒の問題行動の現状と背景理解 児童生徒の問題行動の現状をデータに基づいて把握し、その心理的・社会的背景について考察し、最近の問題行動の特質を理解する。そのうえで、生徒指導に関して、学校及び教育委員会が担う役割と課題について検討を行う。		
	第 2 回	講義・演習②：これからの生徒指導の方向性と課題 日本の学校における生徒指導の歴史を振り返るとともに、アメリカのスクールカウンセリングと比較検討し、生徒指導・教育相談・進路指導の意義・内容・目的、及び包括的児童生徒支援としての位置づけについて理解する。そのうえで、これからの生徒指導の方向性と課題について検討する。		
	第 3 回	講義・演習③：学校の生徒指導力を高めるための組織改善とチーム学校 生徒指導を学校教育活動全体の枠組みから捉え直し、学校組織改善による生徒指導の活性化のための理論と実践について、今後求められる「チーム学校」の視点も加味しながら検討する。		

第4回	講義・演習④：児童生徒の危機に対する組織的な生徒指導の進め方 児童生徒の危機に対する支援の方向性を探り、学校と関係機関との連携に基づく組織的な生徒指導を進めるためのケース会議のあり方について、コーディネートからの視点から、具体的事例をとりあげて検討を行う。
第5回	VOD視聴学習①：いじめ問題の理解と組織的対応の実際 いじめ問題の理解と組織的対応の理論と方法について、小・中・高を通じて系統的生徒指導を実施するための連携のあり方にもふれながら考察する。特に、「いじめ防止対策推進法」のもとでのいじめ問題への対応の現状と課題、今後の方向性について検討を加える。
第6回	VOD視聴学習②：学校における児童生徒の自殺予防 児童生徒の自殺の現状と背景理解に基づき、未然防止、危機介入、事後対応の各段階における対応の実際について検討する。特に、今後学校に求められる自殺予防教育の方向性と課題について考察する。
第7回	VOD視聴学習③：学校の生徒指導体制と教職員のメンタルヘルス 生徒指導の担い手である教職員のメンタルヘルスと学校体制のあり方について、バーンアウトとソーシャルサポートの関係に焦点をあて、学校と教育委員会との連携に基づくメンタルサポートの方向性と課題について、具体的事例も交えながら検討する。
第8回	フィールドワーク①：教育委員会訪問 各自が重要と考える課題の解決に向けた取り組みを行っている教育委員会の先進的な事例を収集し、それぞれの成果と課題について検討する。
第9回	フィールドワーク②：教育委員会訪問 各自が重要と考える課題の解決に向けて先進的な取り組みを行っている教育委員会を抽出し、フィールドワークにおいて探求する論点の整理を行う。
第10回	フィールドワーク③：教育委員会訪問 各自が重要と考える課題の解決に向けて先進的な取り組みを行っている教育委員会を訪問し、資料収集及び聴き取り調査を実施する。
第11回	フィールドワーク④：教育委員会訪問 教育委員会へのフィールドワークを通じて明らかになった成果と課題をもとに、課題解決のための取り組みの方向性についてまとめる。
第12回	集中演習①：学校危機管理対応の理論と実際 学校もゼロリスクではないという認識に立ち、いかにして危機を回避し、あるいは危機に対応するのか、学校危機管理対応のために必要な課題の整理とアプローチについて、学校組織に対する教育委員会の支援という視点を中心に、いじめの重大事態等の具体的事例をとりあげ、体験的に学習する。
第13回	集中演習②：学校と教育委員会との連携に基づく学校危機管理対応の実際 学校危機事例として児童生徒の自殺事案をとりあげ、ポストベンションにおける教職員の役割分担や緊急対応、教育委員会の支援体制、学校外との関係機関との連携などについてシミュレーションを行い、体験的に学習する。
第14回	集中演習③：学校の生徒指導体制・教育委員会の支援体制のモデル案のプレゼンテーション 先進的教育委員会へのフィールドワークやこれまでの講義を踏まえて、学校内外の連携に基づく協働的生徒指導体制のモデルプラン、もしくは生徒指導関連を中心とした教育委員会の支援体制のモデルプランをレポートとしてまとめ、その取り組みの方向性と具体的内容について各自発表を行う。

	第15回 集中演習④：学校の生徒指導体制・教育委員会の支援体制の方向性と課題に関するディスカッション 各自が発表した学校内外の連携に基づく協働的生徒指導体制のモデルプラン、及び生徒指導関連を中心とした教育委員会の支援体制のモデルプランをもとに、学校と教育委員会が協働して推進する今後の生徒指導の方向性と課題について、受講者全員で協議を行う。
成績評価の方法・観点等	1「成績評価の方法・項目」 レポート（評価割合：60%）、発表（40%）に、授業への参加度・貢献度を加味して総合的に評価する。レポートは、出張講義・演習（第1回～4回）に関するものが1本、VOD視聴学習（第5～7回）に関するものが3本、学校の生徒指導体制のモデル案もしくは教育委員会の支援体制のモデル案（第14回～15回）のいずれかに関するものが1本とする。 2「成績評価の観点」 レポート評価については、出張講義・演習（第1回～4回）及びVOD視聴学習（第5～7回）においては、内容に関する基礎的な理解と論理的な思考力を評価の観点とする。また、モデル案（第14回～15回）においては、フィールドワークについての分析を論理的に行えているか、モデルプランに実践性と新規性がみられるかどうかを評価の観点とする。 3「到達目標」 学校の生徒指導において、実践の方法及び組織的体制づくりについての適切な指導・助言ができ、学校危機管理対応においては、関係専門機関等との連携・協働を組織（コーディネート）することができる。
テキスト・教材・参考書等	【テキスト】文部科学省（編）『生徒指導提要』教育図書、2010年。（必携） 【参考書】日本生徒指導学会（編）『現代生徒指導論』学事出版、2015年。 【教材】第1回～4回、第12回～13回においては、教員が作成した資料を授業時に配付する。
事前事後学修	テキストの関連箇所を事前に読み、授業後は、配布資料及びテキストをもとに振り返りを行い、課題に応じたレポートを作成すること。毎回の授業の事前・事後にそれぞれ2時間ずつ、合計60時間の事前事後学修を行うこと。
そ の 他	「アクティブ・ラーニング実施科目」（事例検討のグループワーク、シミュレーション、フィールドワーク、プレゼンテーション、ディスカッション）

授 業 科 目 区 分	共通基礎科目		開設コース	教育政策リーダーコース
授 業 科 目 名 (英 文 名)	特別支援教育の実際と改善課題 (Present situation and some problems on special needs education)			
単 位	2 単位	担 当 教 員	佐藤 克敏 今中 博章	
必修・選択の別	選択必修			
授 業 の 方 法	講義・演習			
標 準 履 修 年 次	1 年次			
開 講 学 期	前期			
授 業 の テ ー マ 及 び 到 達 目 標	障害について基礎的な事柄を理解し、小・中・高等学校において進められている特別支援教育の動向及び各地域の特別支援教育の取り組みを理解・分析することにより、これまでの特別支援教育の取り組みの成果と課題について理解を深めることを授業の目的とする。本授業において、受講者自身が関わる教育現場等の現状と課題についてフィールドワーク等を通して検討し、教育政策・行政や学校のリーダーの立場から、特別支援教育にどのように関与するのかを提案できることが期待される。			
授業の内容・計画	第 1 回	講義・演習①：授業の概要説明とオリエンテーション 本授業の趣旨と概要を提示し、授業資料を配布した後、授業計画について説明する。		
	第 2 回	講義・演習②：障害の捉え方と支援の考え方 ICF（国際生活機能分類）について紹介し、障害に関する基本的な捉え方とそれに基づく支援のあり方について議論する。		
	第 3 回	講義・演習③：各種障害の診断基準と特性及び保護者との連携 発達障害（自閉スペクトラム症、注意欠如・多動症、限局性学習症など）を中心とした診断基準と障害特性、及び保護者の心情や希望等を知り、学校が特別支援教育を進める上で留意すべき事柄について講義する。		
	第 4 回	講義・演習④：近年の特別支援教育の動向 特別支援教育の経緯と施策、インクルーシブ教育システムの導入に至る動向について講義し、校内外における支援における現状と課題について議論する。		
	第 5 回	VOD視聴学習①：小学校における特別支援教育 小学校において生じやすい課題と対応に関する考え方について、VOD視聴を通して学習し、児童への対応のあり方について考える。		
	第 6 回	VOD視聴学習②：中学校における特別支援教育 中学校において生じやすい課題と対応に関する考え方について、VOD視聴を通して学習し、生徒への対応のあり方について考える。		
	第 7 回	VOD視聴学習③：高等学校における特別支援教育 高等学校における特別支援教育の実際に関するVOD視聴を通して、生徒への対応のあり方について考える。VOD視聴全体を通じて理解したことと疑問点をレポートにまとめる。		
	第 8 回	フィールドワーク①： 近隣の学校もしくは福祉施設等における訪問学習を通して、特別支援教育に関する支援システムの現状を知り、成果と課題を整理する。		

	第9回	フィールドワーク②： 近隣の学校もしくは福祉施設等における訪問学習を通して、特別支援教育に関する支援システムの現状を知り、成果と課題を整理する。
	第10回	フィールドワーク③： 近隣の学校もしくは福祉施設等における訪問学習を通して、特別支援教育に関する支援システムの現状を知り、成果と課題を整理する。
	第11回	フィールドワーク④： 近隣の学校もしくは福祉施設等における訪問学習を通して、特別支援教育に関する支援システムの現状を知り、成果と課題を整理する。同時に、受講者の居住する地域における特別支援教育の取組みについて資料を収集し、地域の学校等の取組みに対する現状と課題をレポートとしてまとめる。
	第12回	集中演習①：VOD視聴のまとめと質疑 VOD視聴学習で生じた疑問について、解説もしくは議論を行う。加えて、VOD視聴に関するレポートに基づき、障害のある児童生徒への対応と特別支援教育の取組みについて、自身の経験を踏まえて議論する。
	第13回	集中演習②：フィールドワークの成果プレゼンテーション フィールドワークにおいて整理した地域の取り組みの現状と課題について、各人プレゼンテーションを行う。プレゼンテーションの時間は各10分、質疑5分程度とする。
	第14回	集中演習③：フィールドワークの成果プレゼンテーション フィールドワークにおいて整理した地域の取り組みの現状と課題について、各人プレゼンテーションを行う。プレゼンテーションの時間は各10分、質疑5分程度とする。
	第15回	集中演習④：校内外の支援体制の議論とまとめ 各受講生の居住する地域において、今後特別支援教育を進める上で必要となるソフト及びハード面のあり方について議論する。また、まとめとして「それぞれの地域における特別支援教育の成果と課題解決に向けた提案」をテーマにレポートを作成する（最終レポート）。
成績評価の方法・観点等		レポート（80%）、各授業における議論への参加（20%）を総合的に評価する。 到達目標は以下の通りである。 1. ICFの考え方に即して障害を理解し、支援の留意点について述べることができる。 2. 障害のある児童生徒とその保護者を理解し、対応を改善するために検討すべき事柄を述べることができる。 3. 国内外の特別支援教育の取組を理解し、現状と課題について自分の意見を述べることができる。 4. 受講生自身が関係する地域の特別支援教育の現状と課題を分析・検討し、課題解決に向けたプランを作成することができる。
テキスト・教材・参考書等		プリント等を配付する。 その他参考資料については、第1回目のオリエンテーション時に紹介する。
事前事後学修		オリエンテーションにおいて配付した資料を読んでおくこと。VOD視聴学習では小・中・高別にそれぞれ課題レポートを作成すること。また、フィールドワークについては、課題レポートの作成と同時に集中演習にて報告するプレゼン資料を作成すること。レポート作成も含み、事前事後学修を60時間程度を目安として行うこと。
そ の 他		アクティブ・ラーニング実施科目

授 業 科 目 区 分	共通基礎科目		開設コース	教教育政策リーダーコース
授 業 科 目 名 (英 文 名)	地域教育経営と教育委員会の学校経営改善施策 (Local Education Management and School Management Improvement Policy by the School Board)			
単 位	2単位	担 当 教 員	日 渡 円 押田 貴久	
必修・選択の別	選択必修			
授 業 の 方 法	講義・演習			
標準履修年次	1年次			
開 講 学 期	後期			
授 業 の テ ー マ 及 び 到 達 目 標	地域教育経営の意義や課題を踏まえた上で、自主的・自律的学校経営を推進するための学校と教育委員会との関係、連携の方策を構想することができる。 本授業では、学校経営の自律性確立を図る上で、学校と教育委員会の関係をどのように見直すべきか、また教育委員会が個々の学校の自律性を尊重した上で、所管する複数の学校を「地域教育経営」の観点から如何に管理するのかを検討する。キャリアを持つ受講者を対象に、具体的な地域、学校の経営実態を把握、分析させ、経営組織理論とその問題点を整理させ、学校経営改善を学校の主体的な営みとともに教育委員会の学校行政の在り方からも双方向的にいかに進めることができるかを検討する。			
授 業 の 内 容 ・ 計 画	第 1 回	講義・演習①：オリエンテーション、今日の学校が抱える課題・難題（日渡） 本授業の趣旨と全体概要を提示し、授業実施の計画・方法等について説明する。 また、今日の学校が抱える課題・難題について検討する。		
	第 2 回	講義・演習②：地域教育経営（日渡） 地域教育経営の意義・現状・課題について検討する。		
	第 3 回	講義・演習③：自主的・自律的学校経営（日渡） 自主的・自律的学校経営の意義・現状・課題について検討する。		
	第 4 回	講義・演習④：学校と教育委員会との関係及び連携（日渡） 学校と教育委員会との関係及び連携の意義・現状・課題について検討する。		
	第 5 回	VOD視聴学習①：地域教育経営論（日渡） 地域教育経営のあり方を検討する。		
	第 6 回	VOD視聴学習②：学校経営改善論（日渡） 学校経営改善のあり方を検討する。		
	第 7 回	VOD視聴学習③：「地域教育経営と教育委員会の学校経営改善施策」に関する先進・成功事例の紹介と検討1（日渡） 「地域教育経営と教育委員会の学校経営改善施策」に関する先進・成功事例を紹介し、成果と課題を検討する。		
	第 8 回	VOD視聴学習④：「地域教育経営と教育委員会の学校経営改善施策」に関する先進・成功事例の紹介と検討2（日渡） 「地域教育経営と教育委員会の学校経営改善施策」に関する先進・成功事例を紹介し、成果と課題を検討する。		

	第9回	VOD視聴学習⑤：「地域教育経営と教育委員会の学校経営改善施策」に関する先進・成功事例の紹介と検討3（押田） 「地域教育経営と教育委員会の学校経営改善施策」に関する先進・成功事例を紹介し、成果と課題を検討する。
	第10回	フィールドワーク①：「地域教育経営と教育委員会の学校経営改善施策」に関する先進自治体の実践紹介1（日渡・押田） 「地域教育経営と教育委員会の学校経営改善施策」に関する先進自治体の教育長による講話から実践概要（主としてビジョン，構想）を理解する。
	第11回	フィールドワーク②：「地域教育経営と教育委員会の学校経営改善施策」に関する先進自治体の実践紹介2（日渡・押田） 「地域教育経営と教育委員会の学校経営改善施策」に関する先進自治体の指導主事等による講話から実践概要（主として具体的施策，仕組み）を理解する。
	第12回	フィールドワーク③：「地域教育経営と教育委員会の学校経営改善施策」に関する先進自治体の実践紹介3（日渡・押田） 「地域教育経営と教育委員会の学校経営改善施策」に関する先進自治体の校長による講話から実践概要（主として，校長のリーダーシップ）を理解する。
	第13回	フィールドワーク④：「地域教育経営と教育委員会の学校経営改善施策」に関する先進自治体の実践に関する協議（日渡・押田） 「地域教育経営と教育委員会の学校経営改善施策」に関する先進自治体の教育長・指導主事・校長との協議により，実践の意義や課題を理解する。
	第14回	集中演習①：「地域教育経営と教育委員会の学校経営改善施策」に関する受講者の実践構想の提案と協議1（日渡・押田） 「地域教育経営と教育委員会の学校経営改善施策」に関する受講者の実践構想の提案にもとづき，提案内容の意義と課題を検討する。
	第15回	集中演習②：「地域教育経営と教育委員会の学校経営改善施策」に関する受講者の実践構想の提案と協議2，本科目のまとめ（日渡・押田） 「地域教育経営と教育委員会の学校経営改善施策」に関する受講者の実践構想の提案にもとづき，提案内容の意義と課題を検討する。最後に，本科目のまとめを行う。
成績評価の方法・観点等	1. 成績評価の方法・項目 - 出張講義レポート（20%），VOD視聴学習レポート（25%），フィールドワークレポート（20%），集中演習レポート（10%），総括レポート（25%）を基準として，集中演習におけるプレゼンテーション及び討論等への参加状況・貢献意欲・的確な発言等を加味し，総合的に行う。 2. 成績評価の観点 - 出張講義レポート：講義内容に関する知識の獲得と，得られた知識に基づく自自治体の的確な分析力。 - VOD視聴学習レポート：各回の内容に関する知識の獲得と的確な分析力。 - フィールドレポート：収集した情報の適切な整理・分析及び自自治体との比較・分析力。 - 集中演習レポート：プレゼンテーションの内容と表現力及び質疑応答の適切さ。 - 総括レポート：本講義での全ての学びの適切な整理及び自主的・自律的学校経営を推進するための学校と教育委員会との関係・連携方策の具体的な構想の表現力。 3. 到達目標 - 地域教育経営の意義や課題を踏まえた上で，自主的・自律的学校経営を推進するための学校と教育委員会との関係，連携の方策を具体的に構想できることである。	

テキスト・教材・参考書等	テキストや資料等は事前に配布する。 「参考書」 ・日本教育経営学会編『シリーズ 教育の経営 全6巻』玉川大学出版部，2000年。特に、『自律的学校経営と教育経営（第2巻）』『生涯学習社会における教育経営（第4巻）』。 ・堀内孜編『公教育経営の展開』東京書籍，2011年 ※資料や参考文献は可能な限り事前に提示するので，事前学習を十分行うこと。
事前事後学修	・テキストや文献・資料、送付されたレジュメ等を事前に読み、授業後に示す課題のレポートを作成すること(全60時間)。
そ の 他	・アクティブ・ラーニング実施科目 ・尚，受講生の状況に応じて，フィールドワーク・演習の内容を変更することもある。

授 業 科 目 区 分	共通基礎科目		開設コース	教育政策リーダーコース
授 業 科 目 名 (英 文 名)	現代教育の理念と背景 (Idea and background of contemporary education in Japan)			
単 位	2単位	担 当 教 員	水本 徳明	
必修・選択の別	選択必修			
授 業 の 方 法	講義・演習			
標 準 履 修 年 次	1年次			
開 講 学 期	後期			
授 業 の テ ー マ 及 び 到 達 目 標	教育政策・行政や学校のリーダーに求められる現代日本の教育の基本的な枠組みについての理解を整理、深化し、今日の教育改革の焦点を明らかにする。本科目の受講によって、教育委員会や学校のリーダーとして求められる基本的、基礎的素養の修得が期待される。本科目の「到達目標」は、以下に示す3点である。 ①今日の日本における教育問題、教育課題の淵源を日本の近代化特質に関わって考察することができる。 ②分析する史資料を正確に理解できる。 ③日本における近代史の展開過程と教育の展開の関係を論理的に把握できる。			
授業の内容・計画	第1回	講義・演習①：全体概要提示、オリエンテーション 本授業の趣旨と全体概要を提示し、授業実施の計画・方法等について説明する。また本科目で対象とする資料について指示をする。		
	第2回	講義・演習②：現代公教育の理念と原則 現代の公教育を支えている理念と原則について考察する。		
	第3回	講義・演習③：現代公教育の理念と原則の変容とその背景 現代公教育の理念と原則についてどのような課題があり、どのように変容しているのか、またその背景は何かについて考察する。		
	第4回	講義・演習④：近代における公教育の成立とその背景 近代における公教育の成立について概説し、VOD視聴学習のための知識基盤を形成する。		
	第5回	文献学習①：戦前の日本の教育と戦後改革 戦前と戦後改革期の次の教育基本文献を受講生各自で読解し、公教育の理念と原則という観点から、それぞれの意義を考察し、レポートを作成する。 「小学校令・師範学校令」「教育委員会法」		
	第6回	文献学習②：戦後教育の展開 高度経済成長期から現在に至る次の教育基本文献を受講生各自で読解し、公教育の理念と原則という観点から、それぞれの意義を考察し、レポートを作成する。 「中教審・期待される人間像」「家永教科書裁判第2次訴訟第1審判決（東京地裁・杉本判決）」「家永教科書裁判第1次訴訟第1審判決（東京地裁・高津判決）」「臨教審・教育改革に関する第4次答申」「中教審・新しい時代の義務教育を創造する」		

第7回	VOD視聴学習①：資料解説①—日本の公教育の成立・確立の背景と要因 明治期の日本の公教育成立・確立にエポックとなった3つの資料、「学制序文」「教育勅語」「4学校令」について、その背景、内容、意義、問題点等を解説する。受講生は、自分の分析、解釈と対比させ、問題点を整理する。
第8回	VOD視聴学習②：資料解説②—戦後改革と経済発展における教育 戦後改革期から高度経済成長期にかけての日本の公教育の再生、展開を次の資料から分析する。「米国教育使節団報告書」「日本国憲法」「教育委員会法」「地教行法」「学習指導要領（総則）1958年」「教育白書—日本の成長と教育」「経済審答申—経済発展における人的能力開発の課題と対策」。受講生は、自分の分析、解釈と対比させ、問題点を整理する。
第9回	VOD視聴学習③：資料解説③—戦後体制の転換と教育改革 日本社会の経済的高度化による学校教育の機能変化から生じた種々の病理現象と、その解消に向けた教育改革の試行について、「生涯教育について（P.ラングラン）」「中教審・期待される人間像」「中教審・46答申」「臨教審・最終答申」の解説を通して明らかにし、受講生は、自分の分析、解釈と対比させ、問題点を整理する。
第10回	VOD視聴学習④：資料解説④—教育の主客構造と教育権 社会の高度化、成熟化が教育の多様化や主客構造の検討、転換を必要とし、子ども、親、教師、行政機関の権利・権限、義務関係の検討が課題とされてきた。「日教組・教師の倫理綱領」「教員の地位に関する勧告」「家永教科書裁判・杉本判決、高津判決」「最高裁・学テ旭川事件判決」「ユネスコ・学習権宣言」「児童の権利条約」の資料を分析、解説する。受講生は、自分の分析、解釈と対比させ、問題点を整理する。
第11回	VOD視聴学習⑤：資料解説⑤—社会運営システムの転換と公教育の枠組み 東西体制の瓦解、情報化・国際化等の社会変化による国民社会の変容—日本の社会運営システムの転換から公教育そのものの見直し、公教育経営の転換が課題とされてきたが、現在の教育改革課題について、「中教審・今後の地方教育行政の在り方について」「文科省・学びのすすめ」「中教審・新しい時代の義務教育を創造する」の資料から分析、解説する。受講生は、自分の分析、解釈と対比させ、問題点を整理する。
第12回	集中演習①：現代公教育の課題 これまでの学習を基に、現代における公教育の課題について総合的に考察する。
第13回	集中演習②：現代日本における公教育の在り方 今後の日本社会における公教育の在り方について、教職の専門職性の観点から検討する。
第14回	集中演習③：現代日本の公教育における実践的課題 集中演習①、②に基づき、受講生それぞれの立場における主体的実践課題を検討する。
第15回	集中演習④：まとめ—レポート作成 本科目の全体のまとめとして、日本の公教育についての問いをつくり、それについてレポートを作成する。

成績評価の方法・観点等	1. 成績評価の方法・項目 授業の成績評価は、「集中演習」における「まとめレポート」（40%）及びVOD視聴に関わる「文献学習レポート」（20%）、「VOD視聴レポート」（20%）、そして最初の「講義・演習」と最後の「集中演習」における「発言内容」（20%）による。 2. 成績評価の観点 成績評価に当たっての観点は、本科目の「到達目標」が各評価項目においてどの程度、達成されているか、である。 3. 到達目標 本科目の「到達目標」は、以下に示す3点である。 ①今日の日本における教育問題、教育課題の深淵を日本の近代化特質に関わって考察することができる。 ②分析する25史資料を正確に理解できる。 ③日本における近代史の展開過程と教育の展開の関係を論理的に把握できる。
テキスト・教材・参考書等	テキスト：使用しない。 参考書：資料集として、『解説教育六法』（三省堂）を使うので、各自で購入のこと。また他の資料については最初の時間に指示をする。
事前事後学修	VODで使用する資料を事前に精読しておくこと(20時間)。 「文献学習レポート」は第1回講義で指示する各資料について400字程度(20時間)。「VOD視聴レポート」の課題は、①各回の内容についての感想と疑問（400字程度）、②VOD視聴を通じて生まれた公教育に関する問い（800字程度）、の2点である(20時間)。
そ の 他	アクティブ・ラーニング実施科目

授 業 科 目 区 分	共通基礎科目		開設コース	教育政策リーダーコース
授 業 科 目 名 (英 文 名)	地域と学校 (Community and School)			
単 位	2 単位	担 当 教 員	日 渡 円	
必修・選択の別	選択必修			
授 業 の 方 法	講義・演習			
標 準 履 修 年 次	1 年次			
開 講 学 期	前期			
授 業 の テ ー マ 及 び 到 達 目 標	社会総掛かりの教育を実現するため、教育行政トップリーダーとして、地域と学校の関係性を客観的に捉え、課題を把握し対策能力を形成することを目標とする。 主な内容は、①学校と地域の関係性スケールに関する講義、②設定された課題についてのシミュレーション演習とする。 コミュニティスクール制度の趣旨を理解し、自自治体や自校への導入のイメージを持つことができる。また、学校と地域の関係をデータに基づき判断することができる。			
授業の内容・計画	第 1 回	講義・演習①： オリエンテーション		
	第 2 回	講義・演習②： 地域と学校の関係 1 ―我が国における、コミュニティスクール構想の背景について学ぶ。		
	第 3 回	講義・演習③： 地域と学校の関係 2 ―地域と学校の関係に段階があることを学び、段階ごとの課題を把握する。		
	第 4 回	講義・演習④： 地域と学校の関係 3 ―前時の課題に対し、学校の打つべき手の基本を把握する。		
	第 5 回	VOD視聴学習①： コミュニティスクールと学校支援地域本部事業について理解する。		
	第 6 回	VOD視聴学習②： 事例研究 1 ―住民及び教職員アンケートの分析方法を知る		
	第 7 回	VOD視聴学習③： 事例 1 に対する分析及び対策検討（レポート作成）		
	第 8 回	VOD視聴学習④： 事例研究 2 ―コミュニティスクールの事例とデータの紹介		
	第 9 回	VOD視聴学習⑤： 事例 2 に対する分析及び対策検討（レポート作成）		

	第10回	VOD視聴学習⑥： イギリスにおける学校理事会について
	第11回	VOD視聴学習⑦： 事例に対する分析及び対策の解説
	第12回	フィールドワーク①： コミュニティスクール先進地の視察・聞き取り
	第13回	フィールドワーク②： コミュニティスクール先進地の視察・聞き取り
	第14回	フィールドワーク③： コミュニティスクール先進地の視察・聞き取り
	第15回	フィールドワーク④： 先進地の視察・聞き取りのレポートまとめ
成績評価の方法・観点等	評価方法・観点 ・授業への参加度（ディスカッションへの貢献度） 25 % ・事例分析と対策提案 25 % ・フィールドワークのレポート 25 % ・コミュニティスクールへの理解度 25 %	
テキスト・教材・参考書等	テキストは下記の物を事前に配布する。 文部科学省委託事業「学校の総合マネジメントの強化に関する調査研究」 スクール・コミュニティスクールに向けた学校のマネジメント力強化に関する調査研究成果報告書—国立大学法人兵庫教育大学 スクール・コミュニティに向けた学校のマネジメント	
事前事後学修	・事前に「学校の総合マネジメントの強化に関する調査研究」報告書を配布するので、集中及びVOD時に事前に範囲を指定された範囲を読んでおくこと。 ・VOD 2・3で紹介された事例に対し分析及び課題の抽出を行う。（全60時間）	
そ の 他	・アクティブ・ラーニング実施科目	